

八碁連だより

12月号 第292号



信松院 松姫の墓(台町)

<http://homepage3.nifty.com/yasu1120/hatigoren.html>

発行日 平成27年12月1日(月)
発行所 八王子囲碁連盟
住所 八王子市みつい台2-30-11
電話 042-691-4192
発行者 望月 毅士
編集者 山田 清志

八王子囲碁連盟の目的

八碁連は、八王子市内に居住する囲碁愛好者が、囲碁を通じて親睦を図り、かつ、健康を維持できるよう機会を提供し、福祉の増進に寄与するとともに、棋力の向上を図ることを目的とする。

棋 道

石川囲碁同好会 金本 好正

棋道・・・私にとって死語となっていた言葉でありましたが、先日久しぶりに思い起こさせられる出来事がありました。

囲碁は棋道と言います。書道、茶道、柔道、剣道などと同じように「道」を求める文化であり頭脳スポーツであります。礼に始まり礼に終わるだけでなく、目上の人を敬い、年下の人にも優しく接し、礼儀正しくする。要はマナーを守り相手が不愉快にならないようにすることです。マナーにも「対局者のマナー」と「観戦者のマナー」がありますが、多くの方は、囲碁を覚え対局していくなかで、他の方から教えられ注意されつつ、自然に覚え身についていくケースが多いのではないのでしょうか。

我が家に父から譲り受けた碁盤(厚さ5寸・榎)と碁石(一応は那智の黒石と本蛤の白石)があります。価値は別として、遺品であり願わくば「孫が囲碁を覚え受け継いでくれれば」と思い、数年前から孫に囲碁を教え始めました。が、これがなかなか難しい。ためにこの夏、市ヶ谷の日本棋院「ジュニア囲碁スクール入門基礎クラス」に体験参加させてみました。孫も面白かったと見えて家に帰り早速私と対局開始(九路盤)。ところが、開始早々「ジイジ、碁石は打つところが決まるまで手に持ってはいけないんだよ」と孫からマナー違反を指摘、叱責されることと相成った次第です。

早打ちの私には、「私の手番を打ち終わるや否やすぐに次の手番の為に石を持つ」という長年の悪い癖があります。当然にこの行為はマナー違反であります。ハット我に返ると同時に、今後「打つところが決まってから石を持つ」。さすればヒョットして「ポカが減り、又棋力向上にも繋がるのではないか」との願いを込めて悪い癖を直すよう努めている今日この頃です。

第65回 八王子市民文化祭囲碁大会の結果

八王子市民文化祭囲碁大会が11月3日(火)、八王子市・市民活動推進部長 大野哲宏氏、八王子文化連盟 副理事長 牧野彦市氏をお迎えして小学生から高齢者まで1同に集まり盛大に行われました。

	入賞者	参加者数合計 147名	一般 58名	会員 89名
S組	優勝 小町 俊明 八段 (一般) 準優勝 吉沢 實 7段 (恩方) 三位 豊野 由之 6段 (一般)	6段以上 29名	9名	20名
A組	優勝 柴沼 裕 6段 (一般) 準優勝 軽部 孝治 5段 (一般) 三位 高沼 正三 5段 (一般)	5段～6段 30名	13名	17名
B組	優勝 竹内 俊晶 3段 (一般) 準優勝 小西 弥一 2段 (一般) 三位 私市 克己 2段 (一般)	2段～4段 22名	10名	12名
C組	優勝 小池 一弘 初段 (北野) 準優勝 三友 勇 初段 (浅川) 第三位 鈴木 喬 初段 (一般)	初段～2段 24名	11名	13名
D組	優勝 東 征矢 1級 (一般) 準優勝 鈴木泰太郎 1級 (恩方) 第三位 小町谷常孝 2級 (浅川)	1～4級 18名	7名	11名
E組	優勝 尾崎 健二 7級 (一般) 準優勝 西村 旭 6級 (教室) 第三位 五十嵐琉珂 9級(小3年)	4級以下 24名	8名	16名



第26回 八基連囲碁大会（3段以上）の結果

八基連囲碁大会3段以上の部が11月15日に行われ、当日下午記21名の方が高齢表彰されました。

〈大会の結果〉参加者（62名）

A組（6段～7段）22名

優勝 吉澤 實 7段→8段/恩方 準優勝 矢嶋幾朗 6段/南大沢 第3位 金本好正 7段/恩方
「吉澤實七段は八基連昇段規定により、3人目の八段に昇格します。」

B組（5段～6段）20名

優勝 磯部信広 6段/中野 準優勝 向井克彦 5段/南大沢 第3位 竹内朝晴 6段/恩方

C組（3段～5段）20名

優勝 高橋俊之 4段→5段/長房 準優勝 谷 透 4段/北野 第3位 佐々木胖充 4段/北野

第17回棋聖大賞囲碁大会のご案内

開催日 平成28年1月17日(日) 午前9時10分受付開始

場 所 東浅川保健福祉センター

参加者 八基連相談役、技術顧問、指導員、特別任務委嘱者、研修部事務長
地区同好会会長ほか1名、7段以上の会員、理事

連 絡 参加該当者には、別途案内を差し上げます。

投稿

囲碁と病院（戦後70年記念日の歌）

北野 囲碁同好会 刀根正樹

「願わくば 終戦の日にまだ生きて 碁を打てる身の 天恵を見る」「少年戦火を過ぐ。老年病院を過ぎ、人生の残日死神の許すところ、碁を楽しまずして如何せむ」 新年は肺炎の高熱に苦しんだ。病院は休業で、薬の効果も少ない。若い頃肺炎にかかり、肺を化膿している。「傘寿を迎え、また因縁の肺炎か。そろそろ年貢の納め時か」夢に白衣の死神が現れた。「ついに行く死に出の道とは知りながら、まさか思わざりしが」と私がつぶやくと、死神はおかしそうに笑った。「君には囲碁と病院の日々がまだ少し残っているよ」

春になり、持病の腎臓検査のため病院に行く。朝8時前で病院は閉じている。数人の老患者が入口にたむろしていた。「小柄な老人が演説を始めた。「おお春雨よ。汝は神風特攻兵の涙か。故郷の乙女の千人針を抱きしめて、花の盛りを大空に散ったか」感動し耳を傾ける者。洗面を作り、そっぽを向く者。私は石のように沈黙して新聞を読んでいたが、ふと父の言葉を思い出した。「お国のために神風となれ。名誉だ」父の目に涙があふれ、私は無性に悲しかった。夜空の星を眺め、あの一つになるのかと考えた。

その翌日神戸大空襲が来た。B29爆撃機が空を覆い、焼夷弾の雨を降らせた。小学校からの下校途中で、私は火の海に巻き込まれた。助けを求める阿鼻叫喚の地獄。焼け焦げる死体。絶望的な火炎と煙の壁。お国のために死ぬのだと思った。死神に出会ったのは、その時であった。魅惑的な中年女性で、私の顔を覗き込んだ眼が微笑していた。「こわがるな。きみはここでは死なないさ。これから苦難の人生が長く続く。がんばって生きよ」時は流れ、傘寿の翁と化した私は、病院の前に呆然と立たずみ、過ぎし日々を思い浮かべている。太平洋戦争の敗戦後、今年70周年となる。中国や韓国では日本の歴史認識が問題化している。日本の政治指導者達は戦争体験もなく、その悲惨な地獄図はなかなか理解できないであろう。しかし私にはあの戦争が深い傷となり、生涯ずっと苦しんだのは事実である。

「雲流る果てに消え去る神風や 桜散り泣く春の嵐に」「靖国の 白鳩悲し 神風の魂こもる深き眼の色」
「神風のさだめ消え去り ながらえて 老いたる我はただ囲碁を打つ」

検診は4時間かかる。血液や尿の検査。そしてガン検査。医師の冷徹な目は、私の病状や死に至る情景を見つめている。我ながら断崖絶壁の淵に立つ恐怖を実感する。検診から解放され、コンビニで弁当を買い、バスの中でシリアの難民のようにかぶりつく。今日は北野市民センターで碁会がある。碁敵に早く会いたい。おうほうの神風隊の青年達はこの楽しみを知らず戦場に散ったかと涙ぐむ。「山吹や 病苦をいやす囲碁の道」
「行く春や 碁を打つ老人いそいと」「春惜しむ 命燃やして 碁老人」「年の初めには、まず君と打ち初めをしたかった」河津4段の温かい笑顔。友情。観音の大慈悲。彼の主催する碁会は愛情と祝福に満ち、女性も複数参加する。「カラオケは楽しい。ゴルフもコナミススポーツセンターも面白い」と若林4段がほほ笑む。一切の災いを除去する歡喜天、和合の神をほうふつさせる快男児である。

「時事放談でもやりますか」海上保安庁で生涯日本を守った山本林4段。政治経済情報の解説力の深さ。まさに瑞宝章の輝きがある。不動明王の威力が感じられる。

紅一点の里麻初段は、弁財天がよく似合う。七福神の弁財天。彼女の碁石の姿は力強く美しい。天が北野の老人たちに使わした天女、北野囲碁弁財天ではある。「私は般若心経を時折写経しますが必ず良いことがありますよ」と平田4段が進める。大般若経の神髓、観音菩薩の行を示す。彼は写経し、ガンを発見し、東海大で最先端の手術を得て、生命をとりとめたという。

私は碁を打ちながら、神仏に守られていることを感じる。持つべきものは碁友、囲碁三昧の日々ではある。

「石は死に わが身は倒れ また起きて、碁を打つ日々の かぐわしき空」

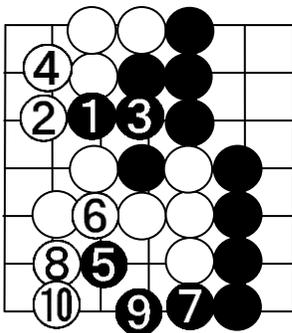
「念仏をとなくて 石は死ににけり わが身に生きる火種残して 」

「囲碁三昧 心の傷も 流し去り」

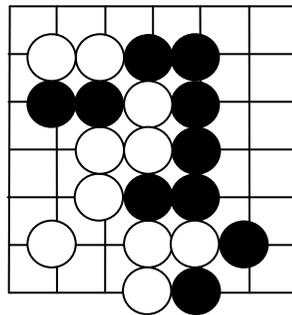
究極のヨセ（七路盤）全24題

黒番 結果 黒1目勝ちとなります。

前号（第2題）の解答



究極のヨセ（第3題）



第8回 理事会 議事録 (10月例会)

開催日：10月24日

出席者 理事 6名

1. 報告・予定事項
 2. 検討事項
 2. 1 11月3日の市民文化祭囲碁大会について、準備された資料で前月の再確認
 2. 2 11月15日と29日の八碁連大会・タイトル大会について、準備された資料で確認・検討
 2. 3 棋聖大賞大会の要綱と名簿を確認。
- (3. 次月テーマ：今後の大会の確認 総会準備)

編集後記 11月は、市民文化祭囲碁大会、八碁連大会がありました。先日、テレビの囲碁番組で埼玉グループ囲碁大会(1チーム7名)というのをやっていました。その中で親、子、孫の3代(73歳から3歳・6段から10級)の家族チームを中心に紹介されていました。普段は家族全員で囲碁を楽しみながら精進し大会に臨んで色々と作戦を立てていました。市民文化祭囲碁大会も高齢者から子供まで参加しています。囲碁の持つ文化的要素と意義を深く感じました。